

箱島小水力発電開始

約60年ぶりに箱島湧水の発電

箱島湧水の豊富な湧水量を利用した小水力発電所の通電式が6月22日に執り行われました。この発電所は民間の資金や経営・技術力の活用を図るPFI事業として、群馬県内で初めて実施され、地球温暖化防止対策への貢献、再生可能エネルギーの普及促進します。またこの施設は災害発生時の非常用電源確保にも役立てられます。

PFI事業とは？

PFI事業とは公共事業を実施する為の手法の一つで、民間事業者の資金・技術力・経営能力を活用し、公共施設の設計建設から管理運営までの全ての業務を長期の契約で一括して委ねるものです。

なぜ箱島湧水で発電？

箱島湧水は名水百選に選ばれた良質な湧き水という一面以外に、一日当たり約3万トンの水量を年間通じてほぼ一定量湧出し、有効落差約82mの安定的なエネルギーを供給できる側面も持ち合わせています。また、1956年まで民間のロックフィルダム形式の発電を行っていた歴史的背景も今施設の建設に繋がりました。



- ①箱島湧水の豊富な湧き水 ②発電施設の取水口
- ③発電所の外観
- ④通電式典で通電スイッチを押す町長ら関係者
- ⑤関係者施設内見学
- ⑥地元の方も見学を行いました



④



⑥



⑤

■発電量のインターネット公開図



発電量はインターネットで確認できます。

<http://yamato1.taskplus.jp/Y57svdkT/PublicFLOW.php>

■箱島湧水発電事業概要

1	事業主	東吾妻町
2	事業形態	PFI BTO 方式
	本事業は、群馬県初のPFI事業で、BTO方式を採用。	
	PFIとは？ 公共施設等の建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法です。	
	BTO方式とは？ Build…施設を建設し、 Transfer…完成した施設を町へ譲渡 Operate…維持・管理を行う方式です。	
3	管理運営	箱島湧水 PFI 株式会社
4	発電に使用する鳴沢川のエネルギー	
	平均出量	0.2783m ³ /s (約20分で25mプールがいっぱいになる程度)
	有効落差	82.1m (約25階建てビルの高さ)
5	水車発電機	水車型式：ターゴ型水車 発電機最大出力・170kW
6	設計・施工業者	株式会社ヤマト

